俳諧古文庫

1954

1954

瀧澤文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文科の外に月旦評のごとき人物論を試みる者少なからず。今日の作家にして、その名を知らざるものなしとまでいはるゝ人物、いかゝ。

年月を経るに従ひ、書いたものゝ価値を生ずるもの、少なからず。書いたものゝ価値を生ずるとは、雖も、書いたものゝ価値を生ずるものは、必ずしも、書いたものゝ価値を生ずるものにあらず。

日くらべ、後に専門の辞書、新古作者の文を集め、要容を集めたり。

以つても、器の容を述べ、波瀾を文選、美の美を述べ、東園会のごとき、是をとゝ、文を求め、詩を作り、賓客のごとき、遊ぶ雅会のごと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天明七丁未孟春　瀧氏

字子翼自序

述

昌平坂學問所

俳諧古文庫目録

辭類

福録壽辭　五吾山
其二　姑山
其四　五吾山
放小鱈辭　羅文
歸雁辭
送羅文辭　文皇
其三　山帯
吊鶯辭
尒爲辭　鷄史

賦類

遊章臺賦　文筐
紙魚賦　羅文
譜類
三草譜　羅文
辨類
蕣辨　姑山
鬼辨
秋津虫辨　扇波
土橋賦　羅文
讀紙魚賦　時得
三虫譜
拔桑辨　不知作者
藥鑵天窓辨　姑山
說類
櫻說　羅文
三弦說　姑山
文類
雛祭文　羅文
聞時鳥文　羅文
論類
物名論
通不通論　羅文
記類
青梅說

東園舍後記　時得亭々亭記
謙類
鷄忠誄　羅文
歌類
招魂悲歌　鄙歌　五首
讃類
田樂豆腐讃　草苅鐵面讃
銘類
井鉢銘　羅文

作者列傳

師竹菴吾山者武州越谷人也受業拼居門下而既進法橋嘗著俳書多矣

風月菴文篁者吉岡氏酒井家臣也号雪碇遊雪中庵好矣

山帯者石倉氏永井家臣也号森森

堂於師竹菴祢高俳之

朏月菴姑山者川嶋氏水野家臣也遊

風雅虛實一鍾倉惜春而著紀行之

松居時得者号登龍舍武州　産

而仕戸田家

扇波者水野家臣也同録姑山又以與之

厚交

瀧澤羅文者武城人也幼愛風雅而一

見師竹菴以明滑誓虛實自号曰東岡

舍

鷄忠字仁蔵羅文之舍弟也嘗号己克亭

仕結城別家天明六丙午秋八月江戸赤

坂而終焉歳二十二

撰者[redacted]者武州江戸産也嘗号喜亭

名興邦字子翼又号鳥水好風雅而著

俳諧古文庫

俳諧古文庫乾之巻

辭類

福録壽辭

奉祝何某復還暦
御賀辭也

いつ迄の御代の人ぶや福源寿といふ。陶々亭
ぶ人、まそうりは。ものの長ぶ行杖ア
ものの月花の源ま杖と寿うまる行家ともまる行繰
ア本に彫てハ。ぶ。ぶ別雛ぶ。ん地ウ寿ぶ。ぶ咱
ぶ。まの翁ぶ。ぶ。ぶ。

留る掘て一[illegible]の菊のいさごとふあるまじ此人やみ
徳や虚実はいかゝひよとまつ[illegible]ゆ雅乃
道乃わるるもいと天ぞ[illegible]も[illegible]も[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
種の中ふ。囲碁ゆ人て斧の柄て斧おゝと見へし。
昔ゆと世の中ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

姓氏、源義家朝臣の御名を、鄙人の名つくるなり。
大君に奉りて、賀表の筆とるべき事なり。
の邪しるし。

いくたるの年の濃や　六十圖

送羅文辭

文筐

さて八月の半ばなるに、公は駕に随つて甲陽入
藩鎮に赴く人なり。郡安東岡の行ずるに、ものいふ花
士ハ、所を仕官の堺にして、命令の地と為るとなり。

ん、風雲の気形を法とするに、ふねそう絶波
の道とするに、戈戟を一歩とつるに、常ふ千
里を報とするに、ペルやの彼岸に向くなるに、川の
美を誇んとするに、さハ乃国ハむかし風庭乃
吟行も帝水にて、菊も百〻行路の麦千樹邪
ものゝ姓名の人なるもすくなきの人とおもふこと
壮年の獨と形て、再会をいなまん乃為なるとて。
旅とする門。

蜀秦の立居しるしるる形

姑山

其二

[illegible]

陽炎や若草の身の秋

山帯

其三

東園全の主人[illegible]
[illegible]
なる。

ゆくすゑの浪とまちし磯の秋

吾山

其四

かひのうみ[illegible]

の[illegible]ん[illegible]の[illegible]

[illegible]

弔[不]鳥辭

小[illegible]

[illegible]十五才ノ化[illegible]

藪垣まとる旧家[illegible]
とゝ旭さしたる朝ナ[illegible]
さ[illegible]生[illegible]遊[illegible]の離[illegible]
生[illegible]時[illegible]餌と遊ひ[illegible]
[illegible]この離[illegible]の小木小[illegible]

[illegible]小童の徒[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ものゝ世界[illegible]ふかく[illegible]。法ハ花のちること。
[illegible]ゝ法[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

水中ようの部屋下のそこに今部屋のもんぜん沖ようのいは
まなきをとりて其の好味を賞中ふ[illegible]まんまとぞろふ
用ひ沼の水深よりとまりて沖と呼ぶされば海の
蓋中ふ水を飲ぶ或ハ水もく或ハ尾鰭うすのまゆく
しるさ海を泳ぎのぬくてもも泳ぐ生ようて又魚中を通てく
泳ぎ方もむ人々日陸ふ八月末日ハ惣山の古ようまをれ
沖をとる蓋ようの曲の[illegible]

謂濱町稲荷堀敬[illegible]後半

泳ぐ生と[illegible]人ぞ子壹ヶ的計ふ口と岡猟網の目とくて
ぬきて春も[illegible]海不知[illegible]後も知ぬ泥中の深
弟ハ[illegible]と[illegible]世ふ和ぶく魚と釣り[illegible]百年の
春秋を[illegible]

泳ぐとくて泳ぐとくて[illegible]と[illegible]
ふて[illegible]を肩をと。彼ふ[illegible]二ヵ下。掉と
ふて[illegible]

是ま又川ふ敬ぬ法を含

介鳥辭

鷄忠

備惟皇仁く篇欲謂於意而敏於行と情[illegible]ふ
らやぞ[illegible]と品鮮と[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

連花をまうり。指屋のようにて工夫のかぎりを尽くしたるものなるべし。
ひまをつくるんだんなりそれは。或は漢の武帝の簫と云ふ樂器
を吹いたもまことと感じてこそ。紫の江邊の月をみて
とかうりうりの業乃さまくなるを申すも一トとも思ひ
給ふのんわをもつもあるべしの者にて十年ばかりの
間に出て生業のふをつ又年の秋とこの
ぢ。ぢつとつかの鬱もを拍のなりひきてたちもなるも
ものとひあつまるそしてつまり生涯の時の
下女下男。役源のつまつるのひも。流石ちがとあるべし
嫁をの嫁に。一京の源と。機別の足浪とをちと
ものもとそ。まことや法るは仁義のなるかにて長上分

の連をとうるに夫婦の中ことはまるとやさるは
面白のさまなるべきをもつ。ぢうりまるとこの
見はいくも見えのは。源四郎ひとりやるべきとこの
風雅の慶賀に指物とのなり。夫に張は風雅乃
命ずしとぞ。もやはりしぢるや張とりてとり目
をなてはは。ぢとしくの紙ばかりのはいとまるの
又巣にてたこるの枝とこの風。
沙とり夫ぢくしのまのとくりぢりとぢて。ことるの
為ぢ。清もはもうう果のまことのの業くのぢてう
ふくむ。世ふしてふのあしのふのまとあいこのを
うくみもしのつとも。ぢとぢすれこうると思

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賦類

遊章臺賦

文質

侍乳山久く年を八庵崎の。淵田川原にしらす[illegible]と
流れ。舞墓法師の詩に言なるしおぢや四時の新緑。
さゆくなるる中かも。飛鳥山は一片花飛と。長閑なる春
を打ち。日暮の里は蹟張と。寒き冬とも化し行
も捨くし紀州もきあり。国まんくかみうつ。一時の
色かて。もく思ひとのみるもかなしく。玉紙のかう
[illegible]。野ふを四沿るも富る。なといし淺草といる梵城
の北かの[illegible]。此地や。いるもの工ら側なを
しい千仞の峻くもふもかて碧潭藍のごとく水遥る。
春を蒼の紀て紅を粧し。夏は中の町の名[illegible]
出とらく。秋は燈の色て盃夜の粧と耐ず。冬は屋の

の烟に酒て床のなくとを聞しむ。爰て拾ひ[illegible]
拾ふの酒を勧まこと[illegible]
[illegible]。一人三十匁[illegible]
の間とあり。神崎の月の名ハ鎮載島の栖とあり。西行の俳の
宿跡なく。白女の口吉も此あるもの[illegible]。其折のまとあひ
金を含む。玉を吐き。宰篠壮観ひ山厳のむ[illegible]
真砂〳〵長者の古〳〵を聞る。鑑次て美[illegible]。善[illegible]
蒲梅[illegible]。ほ[illegible]て[illegible]て領城の
家の長[illegible]ハ桃李の妓娼[illegible]梅葉の艶[illegible]
沢。[illegible]ハ鎮拾の雁う噪ふ[illegible]
去て[illegible]。文ある艶語も今ハ[illegible]花橘のゆり求て

所なり。時て濃尾の熟なり。[illegible]
[illegible]ハ宿を[illegible]東西[illegible]
[illegible]南北[illegible]ハ茶て給[illegible]ハ酒て待[illegible]ハ宿[illegible]
[illegible]物[illegible]
白髮の所[illegible]。南枝花[illegible]
吸ひ雅[illegible]て宰てハ東郷[illegible]。むかのうり。
花て殺ひて。毒枝あ[illegible]。美川[illegible]池[illegible]玉川の
清[illegible]。[illegible]て山次の色を進ひ[illegible]ハ徳山[illegible]
て。松の[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
圓都[illegible]都[illegible]ハ[illegible]。田舎の大[illegible]

り其風俗とうるはしく皆孤屯の元物すて輝くう。妍くう。繁
思孤子のうつしたる前り。繁ハ夜元結扁ことうつ。ぴう扁ぶと
泊る。指ハ婦のてれうや。雲とおりて天日とうつる。花鈿の美
ひ。月とりとうつて夜の錦とおりゆきう。殺て朝白の紙
雪と合ふ。馬代宮のうつるも。春家の蓬山の帯るかゆう。朱き
屋ハいくしかの彩りて。皓き歯ハ誰ゆ彩の瓢の横ておりと
くる腐の雪。濃くうつて清人て流き。常ゆ千金の色深
時とて。往来の河と高沢巧笑倩うう。美目盼うう。瞬細
きといふ。帯ハ唐きといふ。踏豆。徐くうつて八文字と扁
ハ。素足軽くうつて蘭の蓮りとおりて。千狀萬態ひとりうつて
言の葉て言へきり。椀久ハ松山ゆ。夜伊ハ久寿ゆて

うつ。山嶺ゆ根り五重ゆ杉チ。助六ゆ縁ゆ縁角てりまる。
偶ゆ此住境て入る。略ハ惡の山岳ゆ。遊ゆ作の谷巡ことと
畑る。琴の市ゆ長崎を舎。ふハきの墻て船とつる。風流の
庭ゆて白粉飛ん。花者の帯屋て石脇通る。酒の花酒
うつて。碧河舌を畑て。雲ゆ肉の林蔚ことうつて食客居
をおりうつ。唯酒とうつ。ぴりうつ。むて
黒と駒ハ。春て駒ゆ。ぴりうつ。音羽の瀧とうつ。一寿の記録
まる物と知ゆ。芝ハ幸路ゆ指の股て訓ゆ。家と来社ゆ
文字て祈ゆ。印通千杯。白家百盃。ゆて沢ハ酒て
うて見て。ゆて第屋の何ゆ。かとうつて。郭中の濃果。
歌とうつて東門て別ゆ。天安養界と此土て出ゆ。

ことを惜むとて、いつもの実不風月二切の口好みなるものとや。歸去来辞。明月を見てぞよい雅なり。

月花や浮世の障のまてどころ

羅文

土橋賦

有東武深川也而此賦以多寓意述之

江都東北ニ百有余里ニシテ所ハ波浪滿ちたる大河を

挿へ。巻ものの地理絵なりて。深川図と云ふ。俗婦
多く住む。地の人は多くは漁人と書ハ老若のこゝろなり。
漁猟一家共ニ可愛。所の風俗も通と呼ぶ。千年ハ
図の地名色々ありて。所謂仲町図。土橋ノ図。或ハ三稲の亭
松号。おのく水多ありて。都ハ水と呼むのことなり。
歸のつきいと地の地ハ稀なる名濱ことして通客を
引なるとぞ。ものとなるものの数千人で。第ものとなる地稀
所をなく図ハ器の者のいさまとなる事ハ測ル隙ナ
くして描くの地紙とうたへ。龍田の秋ハ孤ハ長ち
三弦のこゑハ四方の音ハ一てハ分ル事ハ難ク。これ為ニ
よく。歌舞と酒宴と遊星の悪ハ完ルことなるもの。久しきて徳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

虫の説をあてたり。この雅言を考て工処て本の上ふ帝の
出給ひしの後ら紙の合せ目て破れて蠹き蝕の干
くまりしるりて白く見えしハ紙魚ぞ。この紙魚ハ
処ならぬもの。の新なるを。好もしとも思ひ。よく本ふ
拭へと教へ給ひ。拭て動かす事なる紙魚よくと蝕て曰。

書物箱の底をとてくき。炎天ふ干ぬ。まへ紙魚の害を退るの
ら。はくく洗ふいること。千万巻の経書なりとも。海ら害を
免ることなる。此一ハ。いふ事也。ハ紙と呼ぶ。動と寸間毒也。
松豪阿蘭陀ら製ひよ似ふ。書籍ふ化ぬるとのなる。何ハ始皇
帝のむりを。見とする。柿沖て類書のなるき。と云ふ。一帝

一行の事紙といへども。修身。斉家。治国。平天下の教とときぬ。
清女ら筆のいとやさしきふ。ものすさまし。乃ち。乃ち。乃ち。
ものすを出つるといふ。男女の中をもつ。伝り。悪神
と知と知ふる。ふハ風雅の宝なる。ふ。人ら物乃の能ハ。俗中の
俗ふ。出ふ。桂義老考の。事紙と。俗ふ。彼を。搭ぬ。と。
知ふ。古池て蛙の寂莫ふ。ハ鐘ハ上野を。海ぬ。と。編ふ世
人の耳ふ。事ぬ。ハ。ふ。書ふ。高ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
紙魚ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

うゝたゝなゝむゝ海里和の和とて毋も処とをハ向後紙ア
海辺る。物のすゝなるをゝゝんより洗濯海ゝの日和美哉
間ハ一業二業ゝてんとゝそ。ゝのちまゝ徳ゝゝ崖ゝとゝ
貶ハゝるゝゝけもハ上ゝゝゝゝや。鼠鳥ゝゝゝゝ。ゝ番ア
害ゝなゝのゝゝなゝ。海ゝ水中小王の緒の浦ゝゝと
ゝゝて。毛罪ゝ義て。其義ゝと知ゝ。海滅後ア一名書ゝ
の如ゝを郎ゝゝハ書家の童蒙。誰ゝゝをよゝゝゝゝ。

讀紙魚賦

時得

鹿を逐ふ猟師ハ山をとんで。川男ハ河ハ深沉のゝゝも。
郎ゝれあゝ。変ア東国舎のゝゝ人。或日許ゝ繰ゝ凡俗
又猥。裏出乃説ア眼をゝゝを処ア。紙魚一ツ文上ゝ死ゝ
ゝる。一変ハ四年ゝ。一度ハ四年ゝ。書堂の文力蔵書
ア残りあり。尤あゝふ出。此文ア其罪をゝゝ。死ゝゝ
懺悔するゝゝゝ。文佛法の教ゝゝ。逆の罪人も。仏
生の一念ゝ法ゝゝふ。ゝ年ゝを必ゝ佛国ゝ。法ゝ。新氏の浦
ホ長ゝを寄ゝ。ゝゝゝゝんゝゝゝゝ。附ハ此虫猟乃法ゝゝゝ
ゝ。面無出雲。出雲生死。花ゝ。鶴ゝて。ゝゝゝ。

法ゝんゝゝゝア。ゝゝゝ。ゝゝゝ佛ゝゝ

春の初めてもえいでるものを食べ、三月の末
に成る味よき物なり。特に蔓菁（オウレン）を神麯（シンキク）に加へ人の耳聰くなるが
如しこれの効を先にしてこれを味の贈りものとなす。
徳を迷はす。三春の余物なり。
三月の末に成るや、花もまたきて初春の雑志の服を脱て
潮雲を生ずる。夜食の人の勝ふ食て、茅しくるかの人
居蔵すれば、乳の雫をも和きたるが、蘇密の酔興に席の暖しも
色肉に傷て、花乳して、酔きを以て、もてる紀と、品の雲紀
自賢に成るなり。彼の花の如き酔の庭に

下雪濃の乳色を、ぱっぱと、ぱっぱと、又一生の乳色。
さて、野根の身を、浸して、大ケ成る、伴まるまで、青くなる
其のこと、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、
地獄の美蕚なるを形て。無ケ中の乳紀粉。黒色衣裳も裏
ぱっぱ花蕚とかく。浸る者の紀を、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ出る。余の人乃
容顔と彩色。紀の衣被き。ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、ぱっぱ、

御ぶぎいに成ることなり。かんんの白梅ハ名所にて。脇本も
おくるきたハ後世の美物ぶ是を賞れて。或人のかりに自
ゆを踏ん人ぶ是を又俗語。こゝろ也。年ぶ[illegible]
る風俗のなくハ世の[illegible]のこと高くなる面白をこゝろしの如
又ハ[illegible]ハ何(十二カ)後の[illegible]
きハ[illegible]同し。
[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]頼てさのく濁る[illegible]
風流を味ひ[illegible]味を物こゝるハ中品よりハ高
の[illegible]ぶ[illegible]美文のこゝをうら情ぶ[illegible]
されハ[illegible]人[illegible]日を世[illegible]を[illegible]
根ぶ[illegible]海の[illegible]ぶ[illegible]や色欲のいとゝ[illegible]

[illegible]とゝ[illegible]ぶ波[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]も[illegible]ぶ[illegible]
も一番二ぶ[illegible]
神[illegible]の[illegible]味[illegible]
席ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
又[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
一瓶ぶ[illegible]

まくこと毎年のごとし。諸人の場を和行。諸人の遊楽
三年を清て年々生ずるとぞ。凡骨肉は三ツ
別なり。婦人は子を産ずるとき胞ひとつ
ぬけさり。されど世人の婦人をして彼を
きて喝といふ。我と部ちと品を問べし。

三虫譜

此譜以飯酒茶三而為三虫之本

食の粒を厭さるとぞ。食の乃沈ずして。飯疏食出所

ハ。ブンヤ情者の名を使ふ。人間万事
行時。ゴンゴ三面の所作なり。ゴンゴ
笠もちうき。婦の名根を昭也。風流のもの
のと。前も興しくらしたるし。ゴンゴ
ようとんすまひやを。おけ茅の七日七月。解脱豆乗
色なり。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。
酒八量なり。愛乱。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。
彼ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。
蕩子紙む典乃。蕩子紙ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。
乃婆ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。
番ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。ゴンゴ。

附ハ花の家とふくこと〳〵月とふ所ゝ〳〵ゆく所ハ霧深ふまる
夕日を奉ゝ或ハ邪鬼魔獸と云てゆ。鄙をもの見ざれとの
むしの音を聞く附ハ人の涙ゆ。
神祇の上座を重ずしてゝ。自不淑。花不拾ふふ
むしのこゑ〳〵まさ。
同第七老を老と書ゝ。淵きとゝハ〳〵。鄙家俗む
ゝハ秋の河ゝ水を感ゝ。岸の湯の風流ゝ。まゝ金銀乃
沙汰不義也。ゝ負ゝ。ゝハ家勝ゝ一附の沙汰ゝ。
冬の夜の火桶のまゝふ集ゝ。ゝ物ゝ中ふゝ親不
鉦とゝ。ゝ物ゝ。ゝ物ゝ〳〵ゝ。ゝ物ゝ。ゝ物ゝ
ゝまゝ。ゝ〳〵ゝ。二人ゝ。ゝ龍とゝむゝ

ふゝ出。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]

俳諧古文庫乾之巻終

俳諧古文庫坤之巻

辨類

葬ノ辨

姑山

亭々亭馬琴撰

物よくきまり。第其金物の。皆あり。是雨露の患をはらはんとなり。
毒よ汝ハ[illegible]ものなるて。月の傷なるを好とて。月は晝の陽なるハ
是まあるそ。[illegible]も分あ[illegible]ハ[illegible]
雨ア二ツ[illegible]ア[illegible]ア[illegible]
三日月の形アア。[illegible]
金の毒を[illegible]。[illegible]
美の[illegible]。雲と[illegible]

軸櫓の為て風雨を揺し。脚の響を揺さぶる。又る人々は。
一生ハ只電光朝露のはかなきを。松柏擢て竜小姫を屋もと
知る。雲の絶のみ〳〵きもして。地獄行くこと怪しし。さはる鈴
くふ笑ふて。雪う久しき苦と。苦の瓜ハ。ぬてくられ。秋の陽遠
なるを。明ハ。雅なる。風流なる。詩月ア。流なる自然と
ゆくこて。元の。庭の朝。誰もあくまも。彼もよろこ。楽むく
起て。場を。ふて。海とうく。合と。志のう。

新蔵や朝夜の美をワきとる

不知作者

年の暮れ。晦日を。御拔さふ。ひと。ひ。年の暮の。年之と
云なり。七ハ。ヒ。比。日。皆人の信を。見。ぬ。し。古を
高良乃京。今の京ハ別。今の京。て。伊勢ハ。伊勢。御神
乃ハ。て。を。ひ。又。西国の奥。も。天野山。ぬり。ぬを。クチ戸と。
外。も。新クチ戸。ハ。つ。て。滝。ぬ。を。なり。や。れ。ハ。を
海橋。も。何。の。て。三条。ら。西国乃。橋。も。の。神。天満。ハ
天満橋。も。ハ。し。し。玉中。こ。よ。ハ。神。て。作。中。ぬ。
こ。ハ。ぬ。ぬ。ヒ。ア。有。乃。小童。を。を。ひ。を。業。仲。南
集。具。歩。ぬ。り。隠。ぬ。ら。の。造。り。ア。ひ。立。の。を。

拓抜拓もいハず。夢[illegible]文字墨
[illegible]中ハ[illegible]と接[illegible]の有[illegible]宮[illegible]東海[illegible]の[illegible]
すと云[illegible]連[illegible]行[illegible]或ハ糸[illegible]
[illegible]百有余里。野[illegible]
[illegible]れ[illegible]渡[illegible]川の田[illegible]
中の間[illegible]
[illegible]
下向の土産[illegible]
[illegible]やいん[illegible]
神[illegible]

夢[illegible]

鬼の韓

世ニ鬼[illegible]
[illegible]
角[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

仏法不滅あるものをとゝめ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ。[illegible]の神のゝつり香ハ[illegible]の腐
[illegible]。[illegible]一体の地獄をきふ[illegible]ハ老の憂
[illegible]仏法のいのちわかハ人[illegible]
[illegible]閻王宮の鬼の業をとゝ[illegible]
[illegible]鬼とゝ[illegible]
[illegible]鬼ハ極楽の[illegible]
[illegible]。海上の[illegible]ハ羅生門[illegible]
[illegible]。[illegible]ハ[illegible]を[illegible]
[illegible]。[illegible]ハ[illegible]
[illegible]。[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

藥鑵天窓辨

扇没非真鈴而以頭冠者此辨也

姑山

隅々にうるおひ渡る。彼戸口にまちひて作る天窓なり。其の名ハ風と光と。ある八秋の果の月をとゝ集よ。さるしと成相なる外法なりなり。只々招る脈後飄雲のやう。彼仲子云ふ沼縣飄の云の事も正なりと。是て風雅をよくしてなり。作まゝなる泥老て似ることなり。又嘉ゝなるいとゝしきなりこそ。なりて。戸なる毎に自清て。雪のことより持ての話ことして。彼方彼方の月ハ行て相ハ吹ふ。能敷ふと服を流し。鼠湖の雲ゝなる毎ことゝ。ことゝ。物の氣の風よりとを

まるあるう。必て又人ゝ。茅屋を野干ともやて。泥ハ所ゝを。さまゝ。つゝ。星十の初花を。明のゝ。菴の光ハ稍と光花と。郎し誰も光る。貧人をハすると光花光る。已ゝ已恵ハ利ゝを照て。胡夜の枕ゝ。ゝ。と。光花光花。ゝ。ゝ。燈ハ光ゝ。ゝ。ゝ。窓の月ゝ。ゝ。又集る。ゝ。ゝ。彼天ゝ。ゝ。輝ゝ。百目鐵の燈。決ゝ。夜ゝ。机上ゝ。書ゝ。ゝ。

ゝ。燈ハ光を明ゝ

秋津虫辨

作二如山之眼大而
對前辨一也

扇渡

蜻蛉よく。汝八豊芦原の瑞穂の実を食ひて。秋津洲
と云名を得し。名の眼よく。眼と云ふべきるい何ぞ其
只定まるや。見果ぬ。人の玄象の変化のごとく。数万
三千洲の三四山下。秋の日は赤蜻蛉と飛を奪ひ。
尾尾を垂れ。ふけゆく。いとあはれ。すべて
すはさ。されば。意とふ。さうの取て。秋の風。いとな
ぬて。雅なれ。汝ら。汝ら。いとあはれ。
樹々の加を時々。蛍と飛ぶ。雨根

説類

ありとも。いとも。聞て。本名の。説をあるよ。

ものいそ。秋を感ずる蜻蛉哉

櫻説　羅文

古来世〻人や立つ。芳野。醍醐。雲井院。上野。龍田。御殿山。いづれ櫻の莊望する。ことかゝりしき東西の名所花に狂ひし人〻遂に去る。吉野乃御神神社。蔵王堂。蔵王権現。社地にて。此の所の。古木なり。鎮座する。園せ。八百年の昔。此の園。櫻。八百年の昔。此の園。櫻。此の花の香や。神徳の。有て。榮て。花のもとに。ゆかりも。見て。樹。見る。花。本。夏より。春。朝。夕。香。雲。洲。雲の。海。ふね。夫。下。花。の。春。春の。絶。家。家。に。花。と。仏。さ。と。仏。さ。

風。雅。の。初。食。も。極。め。人。か。日。本。和。と。日。本。の。天。の。財。も。や。歌。河。
雅。と。と。詩。て。鳴。の。鳴。家。彩。を。ゆ。く。と。び。胡。蝶。と。の。〻。數。を。
彩。。。

[illegible]

[illegible]

青梅ノ說

梅ハ花の正しきものにして、いつれの時にか[illegible]。野辺ハまた[illegible]雪間の[illegible]。[illegible]の[illegible]ふ[illegible]。[illegible]の[illegible]。[illegible]の八重一重ハ[illegible]の白梅[illegible]。[illegible]乃[illegible]花不[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

三弦の説

姑山

昔く猫の皮の張り方。三味線は、漢土乃猫皮とりそし。伊勢
八の流とのことなれども、三味の糸にて書きあれば元祖。
天正の比。海老屋理助不の人とナニ段よりく海老屋と名くる者
曲とたのもう琉球国より三味線ワリ。泉州堺の津ゐること
とたてて合せて弾ひかしうせるもの。又西の宮の恵比寿
とうしひ。人形とまわさせり。ハ。諸国流行ちとなる。合き
浦節ありしも。そ文い世の賢人達善悪と用ひて世俗乃
勧善懲悪の為いしもの四海をハ。ひかうち邪欲を拿く潔
もいくるし。物ーようてて人情と用ひ。善をよくして悪を懲ら。

或時ハ橋船にて之くく。川風ふきすぎ。波浪を無きとくし。
又ある時ハ。席上とちくくの会。いつもこすき曙もちろん和ふの
業。古道具。柏屋ふの高尚行。已ふ人気を勇ち。陽こる
と神ふのなくしひかして。初ると事ハ。ちくハくと。ハ。
弾をよ。はして源むる。是ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
ぞして上ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
敬ふ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
もとつ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

三味線とうみの用ふと沸ふ

文類

雛祭文

歳〻年〻人間の人形は是を又とり無て。古きを捨て新しきを求めるは。雛を[illegible]上ハ樽[illegible]雛[illegible]下ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]て[illegible]。樽[illegible]て懸屋の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

七日の長屋で。白酒の酒も呑て。[illegible]。胡麻[illegible]。蕎麦の後段八千。秋葉の後段[illegible]。[illegible]。[illegible]。

物も遠て二声三声鳴くなり。寒さや隅田高田の名残。今
宵は我松上て行らん。辱き濡らと。のゝ字書つるてゝ
なりぬ。

春て却るゝ市や涙ぐまし

論類

し

物名論

天は陽にして是を天といい。地は陰にして是を地という。
是ら性とうけ。形を成せるものゝ名のつけるなり。されば
の形なきもの。よく四時の変化をつかさどる。人は別人にして男女あり
いはゆる地にて地名。物にて物名。又一切に名称あり
とゝもに。爰には師父の生名なり。ひとつとして名なしなし。
ひとつとして名なしなし。或は源氏平家盛衰の跡
世にいつ。或は人物を人物とし。事を事とし。
かゝる形のみにあらず。千載のいろくず。天は天として

孫となりて。士農工商の業又第一なりと云ふ。是を世
るつさくなんとしたされハ猫しこの商業を離れたるもなく人
間の日用なるなくハ犬のごとく。猫の来たりて同じといふなり。
まるで猫なりても見ぬもと。夫ら中ハ。名苦とくのいまるもの。
アイウ子の魂いまを女房(ニョボウ)と云ふ。妻乳をトウウ
と延したる。此俗語のはまりを西さんのハ。都雅備をなし。
古ぬる親とたくさんなもいふ。けもと。俗ハ俗のようなる
陸なも。ほくしの拙筆今ハ法師て。権兵と名ハ西ものと。
世ものも。仏ものもなり。知恵のおもしろきものの。おもしろ
くとなるもし。さくさくやなりもし。とくくや言ひもし。物ものよう
て名をなもし。顧麟無ハ顧麟の画もなり。龍貴ハ

龍の貴ものもなり。さもとその形ハ何ものと名つけるもんて。
猫と人とも名つけるもの。人名作なりと言ふ。人名作なりとも。
名の千里の遠ハ拙ものの。千倍の遠ハくされハ名を
なるものの。名を知ハ名を。名を厭ものの名を。名を厭用
なるものとなくいハもとも。人名作なりと名を。
名つけるや。三拙部ハ人生ハ名を
ものなり。名ハ名ハ名なり。何ハ名なり
ハ名ハ名なり。名ハ名ハ名なり。何ハ名なり
俗中より出でるものとなり。名ハ俗ハ
して名のおもしろきもし。唯の海ものとなり。一ハ
陣皮とものハ。ハ名ハ名なり。俗ハ名ハ名なり。

不通論　羅文

通ハ仁なり。不通ハ不仁なり。通ハ老子の道德なり。仁ハ仲尼の教なり。されハ樊遲ハ樹と問ひ、子路ハ天下の為なり。通なるなり。己ら為ハ不通なり。やはり君子ハ己を忘れ通て大為なり。ふ夏ハ大勇なり。ふ夏ハ

よの名の沒ふるゆり水の月

知一の道なり。宗氏ハ道なり。通なり。耳の大孝も聲聞なり。有て一為ハ通なり。不通の器と知るべし。やはりよりて藏ハ小志なり。樂ハ者凡ハ為ハ人の為ハ通なり。ふ仁ハ人の為ハ通なり。ふ仁ハ人の為ハ通なり。ふ仁

記類

東園舍後記

時得

山馬の尾のかつ〳〵き[illegible]の[illegible]ハ山と[illegible]き掃集ハ山を敷て園とす[illegible]の東ニ園とい名例[illegible]ハ百里の入江を掃く西ニ折樓高くして湾屋敷[illegible]と思ふ。遠ニ土橋ニ[illegible]ハ傾陽ハ美[illegible]て東ニ[illegible]ふ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]。[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ハ梅園と[illegible]ハ雪[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

小。農ケ関ニテ[illegible]。市中ニ帰ル。名所ト呼ブ。
[illegible]の梅ヲ見るや。時節の[illegible]。[illegible]。
元禄[illegible]。[illegible]。
小[illegible]。[illegible]。
[illegible]を吹く。[illegible]。
眠りの[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。

[illegible]

誅類

鶏忠ガ誅

羅文

今年天明六年のころ。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。

こそ侍れ。春は花盛、夏は
[illegible]。秋は二月三月の花
の[illegible]。冬は雪を[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

招魂悲歌

アハレ、なほ、はかなき世のつきなかりけり。と、年天保七年。秋の末れもて
更くる。時は、錦織る山のあなたこそ。そよ、ふく風と、いとゝ、冷て、樣
うきまさりぬ。なほ、いとゞ、年の暮れ、なほとて、黄昏の
旅寝おもふ人、ゆゑ、児、こたへ、のこりなく、人の、なれ、一夜
と、思ふ、なかりしも。ものもまゐらぬ、知るべきかや。ふるさとの
ふるさとに、なれ、なりぬ。いとゞ、いとゞ、人や、風雅、ゆゑ、
藤能、殺、用、ふる、濃、人の、ゆゑ、さそ、なれ、育れも。風花に
いなる。ゆゑ、ゆゑ、河、や。波、なる。第、ゆゑ、ゆゑ。ゆゑ、島の、ゆゑ、と
ゆゑ、ゆゑ。時、ゆゑ、ゆゑ、魂、の、関、ゆゑ、ゆゑ。海、面、の、ゆゑ、ひとゝ、ゆゑ、さ、ゆゑ、ハ

そ、ゆゑ、の、ゆゑ、も。又、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ。ゆゑ、も、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、こゝ、と
ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ。いと、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ

墓の傍を行んとすれば、いそがんとて、[illegible]
此ものがたりいやこと高くなりまさりて。[illegible]
聞くに別れ居るすべて。馬琴[illegible]
[illegible]人の[illegible]を[illegible]
[illegible]八百とせの才能と。二十余年ふるかたり
[illegible]渡雲魂。今宵三七の忌日[illegible]
[illegible]渡[illegible]雲魂。

[illegible]一日

同校[illegible]を[illegible]
[illegible]青[illegible]の雲を吟せし
[illegible]此[illegible]

[illegible]の山の名[illegible]
墓[illegible]の細[illegible]
[illegible]

秋の朝[illegible]の[illegible]
[illegible]の草[illegible]
[illegible]人の[illegible]

鄙歌

[illegible]の[illegible]

吾山

[illegible]

夜夜

鶏史

[illegible]夜の月[illegible]

印の花

馬琴

花のもと又ものとなりけるの形をうつし其ものゝ名をも

鄙之床

なるべし

せきろひハ紀ていうの山茶花なりの名なりと呼なり

吾山

春光

魚多の家〳〵ハ春ていうる春と雨の酒の肴にもてなす

讃類

田樂豆腐讃

田樂ハ豆腐の名と伝ふ中也。花ハ花也。花ハ世ていふ。

月ハむさしの国の名所。桜ハ常也。ほとゝぎすハ鳥の名。

草庵ハ草庵の田楽。たるみハ田楽。

とゝ桜ハ春花の世話ひて。本の茅の巻。そゝ郎の歌と

茶事ハ。風流と庵と同じ。世ていふ風雅の業ハ。花より団子

と書てゝ。田楽とハ。豆腐。豆腐ハ。はるさめ大食の事と。

数ハ。豆と魚田とこゝ。ハ。梁塵。雲といふのゝやゝ。波瀾

の禅門。田楽と来〳〵より。無小ていふ。

田楽豆腐ハ。

時鮮ハ。花ハ。桜ハ。

ハ。刃〳〵より。四時。夏の花と。

月ハ。むさしの。

草庵ていふ。

とゝ桜ハ。春花の世話ひて。

茶事ハ。風流と庵と同じ。世ていふ

と書てゝ。田楽とハ。豆腐。

数ハ。豆と魚田とこゝ。ハ。梁塵。

の禅門。田楽と来〳〵より。無小ていふ。

田楽豆腐ハ。

時鮮ハ。花ハ。桜ハ。

田舎のこゝぢぬをとゝ。一年とゝ。賛て曰。

紙衾や作白く新不花の寒

草苅鎌画讃

晴る日は赤く花のふと草不苅
磨くときは白く雪の月の新とうて光る
苅中に実は寄て鎌のかゝるを恨む
切る時は夢ゆく鳥ら肩をとゞまる

賛て曰

落月の寒不花る時哉

銘類

井鉢銘

迫世井こゝ盥出く。ゆきとゝ。ゆきとゝ。セヲ家居所の子

羅文

番ものもてはやすなり。大用とせざるべからざるなり。
二三寸の丸ことに成ぬる時分とる時は大きなる福玉屋の摺鉢を新たに
買ふべし。もしまたる如ハ其人の見形。そもそも鉢ともふさ用ゆるなり。
鉢ハ素焼の優れたるを用ひ。名ある人の享の流儀とかなり。又松魚の三重
砧ハ。少茶ものゝ多料理と異なるなり。何ものゝ如ク
和漢風雅の席にて。著とせ。昔ものゝ人とせる時ハ。ようゝの場と
なりて。爾とせ。一とせんの終千日。

之保ノ答ヘ 石橋と沖の答ヘ略ス

俳諧古文庫 坤之巻 終